

万代長嶺小学校



万代長嶺小学校
マスコット「にじり」

新潟市のシンボル 萬代橋

明治19年11月、新潟の発展のために、旧新潟市と旧沼垂町とを結ぶ木橋の初代萬代橋が完成。大河津分水路通水を期に信濃川が改修され、川幅が1/3 (770m→270m) に縮小。現在の萬代橋は三代目。橋長306.9m、6連アーチ橋として昭和4年に完成。平成16年、国の重要文化財に指定。

私たちが住んでいる万代長嶺地区。地域の宝物と言えばやっぱり日本一長い「信濃川」です。



信濃川について知っていることを出し合ってみよう。
昔は今の3倍の川幅があったんだって。今はどうして川幅が狭くなったのかな？
サケがのぼってきてるんだって。本当かな？
意外と知らないなあ。調べてみよう！

● 子どもの声 ●

- 僕の家の窓から信濃川が見えます。毎日見ている信濃川だけど、歴史や自然などあまり知らないということが分かりました。
- 新潟に来る観光客で一番多いのが朱鷺メッセの「ばかうけ展望室」だというのはビックリしました。信濃川が人気だということを知ってうれしかったです。朱鷺メッセで観光に来た人たちに信濃川のよさを伝えたいです。

関屋分水路

河口から約10km上流の平島から分岐し、関屋地区を抜けて日本海に至る、全長約1.8kmの分水路。新潟港にたまる土砂を減らすことと、新潟市を信濃川の氾濫から守ることを目的に、昭和47年に開通し、通水を開始。

大河津分水では東洋一の大事業と言われるほど、当時の最新の技術と多くの人々の力によってつくられたと説明を受けました。また、関屋分水見学では、分水の完成で、信濃川河口の川幅が3分の1にまで狭まり、万代長嶺地区の洪水被害を防いでいることを教えてもらいました。

実際に大河津分水を見ました。信濃川より川幅が広いことにビックリ！



人力で川をつくるのがどれだけ大変か、立体地図を基に学芸員の方から教えていただきました。

関屋分水の開閉門のすぐ近くは海！大河津分水とこの関屋分水のおかげで万代長嶺地区が洪水から守られていることを実感！



● 子どもの声 ●

関屋分水資料館で、信濃川の洪水と新潟市の人々の関係について学習しました。



今の僕たちの暮らしは、大河津分水や関屋分水のおかげで守られていることを初めて知りました。

「横田切れ」の被害の跡は新潟市にもある！

明治29年7月22日、横田（現在の燕市）の信濃川堤防が切れ、越後平野の広い範囲が一面の泥海となった。低い土地は11月になっても水に浸かったままで、衛生状態の悪化による伝染病が蔓延し、命を落とす人も出た。

信濃川は昔「暴れ川」と言われ、多くの洪水をもたらしました。そのうち最大の洪水と言われる「横田切れ」について調べるため、西区にある宝光院さんへ行きました。宝光院には、今も当時の洪水で水が上がった跡が柱にくっつき残っていました。また、住職の奥様から当時の被害の様子を具体的にお話していただきました。

当時半年以上も水が引かなかったことや1メートル以上の高さまで水が押し寄せたことなどをお聞きしました。



横田切れの洪水で上がった水位の跡が、柱に今でも残っていてビックリ！

● 子どもの声 ●



横田切れが過去最大の洪水であり、被害が半年も続いたことを初めて知りました。こうした経験があったから、大河津分水があるんだと思いました。

信濃川キッズガイドに挑戦だ！

いよいよガイド本番。校区にあるばかうけ展望室やメディアシップを訪れた方々の前で、信濃川や萬代橋の魅力をイラストやクイズなどで伝えることができました。訪れた方から大きな拍手をいただきました。

ここを見てください。1896年に横田切れという洪水が起きました。田んぼや家が半年も水につかり、大変な被害を受けました。そのため、1716年から1735年に大河津分水の建設を幕府に願い出しました。



キッズガイドの会場は、校区にある朱鷺メッセの「ばかうけ展望室」とメディアシップ



平成20年度、信濃川に捨てられたごみを回収するのにかけたお金はいくらでしょうか。

- ① 60万円
- ② 600万円
- ③ 6,000万円

正解は②の600万円でした。

訪れた方の声

信濃川の川幅が今より3倍も広がったことや洪水を防ぐために大工事を行ったことなど、初めて知ることばかりでした。
子どもたちのおかげでとても楽しく学べました。

● 子どもの声 ●



新潟市には120年位前、横田切れという洪水があり、そのことをきっかけに大河津分水や堤防をつくったことを説明しました。新潟の魅力は、水がきれいだと水鳥や魚が多いところ。また、米もおいしいです。新潟の魅力がこれからも伝えたいです。



私たちは、大河津分水について発表しました。大河津分水は100年以上の歴史があり、たくさんの方々の思いでできたものです。毎日何気なく見ている信濃川ですが、多くの歴史があることを、改めて考えるとすごいことだなと思いました。